

こたえ アーサー王と石の剣^{けん}アーサー王と石の剣^{けん}

(イギリスの伝説)

昔、イギリスの王が亡くなったあと、国には王がいなくなり、貴族たちが、だれが次の王になるかをめぐって争っていました。国は、みだれていくばかりでした。

ある日、ロンドンの教会の庭に、大きな石が現れました。その石には一本の剣がささっていて、こう刻まれていました。「この剣を石からぬいた者こそ、この国の正しい王である。」

たくさんの方族や騎士たちが、剣をぬこうとしました。けれども、どんなに力の強い者が引っぱっても、剣は少しも動きませんでした。中には、けんかになりそうになる者までいました。

そのころ、アーサーという少年が、兄の騎士の手伝いをしていました。ある日、兄が自分の剣を宿に置き忘れたので、アーサーは代わりの剣を探しに出かけました。そして、教会の庭の石にささった剣を見つけると、何も知らずに、それをすっとぬいてしまったのです。

人々は、たいそうおどろきました。アーサーは、その後、何度でも人々の前で剣をぬいてみせ、ついに、王として認められました。アーサー王は、円卓の騎士たちとともに、国をまとめていったと伝えられています。

1

石には、剣をぬいた者が何になると刻まれていましたか。

この国の正しい

王

2

貴族や騎士たちが剣をぬこうとすると、どうなりましたか。

ア

かんたんにぬけた。

イ

少しも動かなかった。

ウ

折れてしまった。

3

アーサーが、教会の庭に行ったのはどうしてですか。

兄が宿に置き忘れた剣の、代わりの剣を探していたから。

4

アーサーが王として認められたのは、どうしてですか。

何度でも人々の前で、石から剣をぬいてみせたから。